


名 称 [所在地]	重要 文化財 指定	伝建 特定 物件	文化 財登 録	景観 重要 建造 物等 他	建物概要	写真
岡田家住宅 [神戸市東灘区]					昭和10年(1935)の建築で、木造2階建て。大林組の設計・施工。スパニッシュ様式の注文住宅として建てられ、現在は教育施設として利用されている。	
旧小寺家別邸 (太田酒造迎賓館) [神戸市東灘区]					昭和10年(1935)頃の建築で、木造2階建て。設計はW.M.ヴォーリズ。当時流行したスパニッシュ様式を基調とした寄棟屋根の住宅。玄関の柱やバルコニーのアーチ、飾り格子など、細部にも凝ったデザインが施されている。	
景山家住宅 [神戸市灘区]					昭和6年(1931)に貿易商の住宅として建築された。木造地上2階地下1階建てで、スパニッシュ様式に塔屋のドームが特徴的。神戸大空襲で被災したが、戦後に修復された。	
旧大谷家住宅 (財)神戸大学六甲台 後援会ロイ・スミス館) [神戸市灘区]			○		昭和10年(1935)の建築で、木造2階建て。設計は清水栄二。スパニッシュ様式を基調としながら和風の間取りも取り込んでいる。要所に海岸をデザインしたステンドグラスが使われ、当時のまま残されている。	
旧グラシアニ邸 [神戸市中央区]			○		明治41年(1908)の建築で、木造2階建て、寄棟造葺瓦葺。敷地の東・南面は道路に面する。低い石垣上に垣根とモルタル塀を廻らす。南面の西端に石段付きの門を開き、古い屋敷構えを残している。	

※本選定は公開を前提としたものではありません。レストラン、展示施設等として利用されているものを除き、原則非公開です。お住まいの方もいらっしゃいますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。

名 称 [所在地]	重要 文化財 指定	伝 建 特 定 物 件	文 化 財 登 録	景 観 重 要 建 造 物 等 他	建物概要	写真
旧トーセン邸 [神戸市中央区]		○			大正8年(1919)頃の建築で、木造2階建て、寄棟造、石綿スレート葺。主屋は敷地の東北に寄せて建ち、南は庭、北は付属屋と廊下で結ぶ。西側には当初の鉄扉飾りを残す門がある。	
旧バクレー邸 [神戸市中央区]		○			大正期の建築で、木造2階建て、寄棟造、棧瓦葺。中廊下式の間取りで、東面中央に玄関ポーチを設ける。東面北寄りに浅く角屋を張り出す。西面は差掛庇を付して居間を広げている。南側は狭いペランダが付いている。	
旧フェレ邸 (ベンの家) [神戸市中央区]		○			明治末期から大正初期頃の建築で、木造2階建て、寄棟造、棧瓦葺。外壁は当初下見板張だったが、現在はモルタル掻き落としとなっている。	
洋館長屋 (仏蘭西館) [神戸市中央区]		○			明治41年(1908)の建築で、木造2階建て、寄棟造、棧瓦葺、外壁下見板張。北側が道路に接し、中央階段の左右に入口を設ける2戸建ての長屋住宅である。	
マリニン・フタレフ邸 [神戸市中央区]		○			明治34年(1901)の建築で、木造2階建て、寄棟造、棧瓦葺。敷地東側に道路に面して冠木門と袴腰屋根セメント瓦葺の車庫を並設する。主屋の東側に小さな庭があり、西に付属屋が接して建てられている。	

※本選定は公開を前提としたものではありません。レストラン、展示施設等として利用されているものを除き、原則非公開です。お住まいの方もいらっしゃいますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。

名 称 [所在地]	重要 文化財 指定	伝建 特定 物件	文化 財登 録	景観 重要 建造 物等 他	建物概要	写真
旧ナショナルシティバン ク神戸支店社宅 [神戸市中央区]					昭和6年(1931)の建築で、木造2階建て。設計はW.M.ヴォーリス。平成元年(1989)に敷地内で引き家・改修された。切妻と妻面の煙突が特徴的なスパニッシュ様式の住宅である。	
旧神戸地方裁判所長 宿舎 [神戸市中央区]					大正後期の建築であり、建物前面が煉瓦造、白煉瓦タイル仕上げの洋風住宅で、開口部にはアールヌーボー調のステンドグラスが用いられている。	
神戸ルーテル神学校 [神戸市中央区]					明治末期から大正頃に貿易商の住宅として建築された。当時の住宅には珍しい鉄筋コンクリート造3階建て。入母屋の瓦葺きで、3階には小さなサンルームも設けられている。現在は神学校として使用されている。	
椿原家住宅 [神戸市中央区]					木造2階建てで、急勾配の半切り妻屋根を組み合わせた複雑な形状の赤い屋根とハーフティンバーの妻面が特徴的である。	
展望塔の家 [神戸市中央区]					大正時代後期の建築で、木造2階建て。もともとは2軒長屋の賃貸住宅で、外壁が鱗状の天然スレート仕上げの展望塔が東側に設置されている。北野町の一番高い所にある異人館であり、景観のシンボルとなっている。	

※本選定は公開を前提としたものではありません。レストラン、展示施設等として利用されているものを除き、原則非公開です。お住まいの方もいらっしゃいますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。



名 称 [所在地]	重要 文化財 指定	伝建 特定 物件	文化 財登 録	景 観 重 要 建 造 物 等 他	建物概要	写真
萩野家住宅 [神戸市須磨区]					明治40年(1907)頃の建築で、木造2階建て。間口に対して奥行きが長く、白い外壁が特徴的なコロニアルスタイルの住宅である。	
旧日下部家住宅 (舞子ホテル) [神戸市垂水区]					大正8年(1919)頃の建築で煉瓦造2階建て、寄棟造、垂鉛鍍鉄板葺で、玄関部を切妻に張り出している。全体の意匠は広義のアール・ヌーヴォーに属するが、随所にセセッションの意匠を配している。現在は、併設されている入母屋造の和館とあわせて、ホテルとして利用されている。	
旧後藤家住宅 [神戸市垂水区]					大正中期の建築で、木造2階建て。設計は設楽建築工務所。傾斜のきつい切妻のスレート葺屋根をもつ洋風住宅と平屋建の和館からなる和洋館並列型住宅である。	
山田邸 (旧ジョネス邸) [神戸市垂水区]					木造2階地下1階建て、大正8年(1919)に現在地から約500m東の海岸沿いに建築され、昭和38年(1963)に現在地に移築された。ステンドグラスなど、和風と洋風がうまく融合した室内装飾や、擬石風の仕上げで、肘木を設けた柱頭飾りなどの外観に寺院建築の意匠が盛り込まれている。	
大西家住宅 (レストハウスまきば) [神戸市西区]					昭和8年(1933)の建築で、木造2階建て。設計は本間彦彦。建設当時の屋根は杉皮葺き丸太押さえ、外壁は板張りの山小屋風の造りで、内部も一部を除き靴履きのまま使用されていた。都市近郊の農場開拓者の住居の特徴的な事例で、現在はレストランとして使用されている。	

※本選定は公開を前提としたものではありません。レストラン、展示施設等として利用されているものを除き、原則非公開です。お住まいの方もいらっしゃいますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。

名 称 [所在地]	重要 文化財 指定	伝建 特定 物件	文化 財登 録	景 観 重 要 建 造 物 等 他	建物概要	写真
坂野家住宅 [尼崎市]					大正15年(1926)の建築で、木造2階建て。竹中工務店の設計・施工。スパニッシュ様式でバルコニー兼用のサンルームと大きな煙突が特徴的。大正9年(1920)の阪急神戸線の開通、塚口駅の設置により、同駅周辺の宅地開発が行われたが、当時の建物として唯一現存している。	
旧ナショナルシティバンク大阪支店社宅 [西宮市]					昭和4年(1929)の建築で、木造2階建て。設計はW.M.ヴォーリス。スパニッシュ様式で、寄せ棟の赤瓦屋根にアーチ型の玄関がアクセントになっている。阪神大震災で被災したが、原型に近い形で修復された。	
濱甲子園倶楽部会館 [西宮市]			○		大林組住宅部が、浜甲子園健康住宅地のモデル住宅として、昭和7年(1932)に建築した。木造2階建てで、現在は地域の集会施設として使用されている。なぐり仕上げの大梁や、檜の小丸太が配された漆喰天井、重厚な親柱と欄干のある吹き抜け階段など、当時好まれた洋風意匠の装飾でしつらえられている。	
稲畑家住宅 [芦屋市]					昭和12年(1937)の建築で、鉄筋コンクリート造一部木造地上2階地下1階建て。清水組の設計・施工。当時流行したスパニッシュ様式の住宅で、門構えとともに重厚な雰囲気を出している。	
重信家住宅 (重信医院) [芦屋市]					大正末期の建築で、木造2階建て。ハーフティンバー風の妻面を正面に見せた佇まいは、芦屋川駅周辺景観の重要な構成要素となっている。谷崎潤一郎の小説「細雪」の「榎田医院」のモデルと言われている。	

※本選定は公開を前提としたものではありません。レストラン、展示施設等として利用されているものを除き、原則非公開です。お住まいの方もいらっしゃいますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。

名 称 [所在地]	重要 文化財 指定	伝建 特定 物件	文化 財登 録	景 観 重 要 建 造 物 等 他	建物概要	写真
乾家住宅 [宝塚市]				○	昭和13年(1938)頃の建築で、木造2階建て。明るいレンガ色のS瓦葺き屋根、装飾の煙突、建物と一体となったパーゴラ、アーチ型の窓が特徴的である。 ○ (宝塚市景観形成建築物)	
日下家住宅 [宝塚市]				○	昭和2年(1927)の建築で、木造3階建て。施工は「あめりか屋」。二連アーチ窓のある妻面やステンドグラスで飾られた温室の外観がランドマーク的な性格を有している。 ○ (宝塚市景観形成建築物)	
栗原家住宅 [宝塚市]				○	昭和6年(1931)以前の建築で、木造2階建て。ロッジ風の外観で、周辺では独特な意匠を示している。傾斜地に合わせたスキップフロアの平面計画とする簡素な外観を呈している。 ○ (宝塚市景観形成建築物)	
河野家住宅 [宝塚市]				○	大正11年(1922)の建築で、木造地上2階地下1階建て。地元の大工による建築と伝えられている。自然の傾斜地を見事に生かして半地下を設け、ドイツ風の赤い腰折れ屋根が特徴的な外観を呈している。 ○ (宝塚市景観形成建築物)	
高崎記念館 (旧高崎達之助邸) [宝塚市]				○	大正12年(1923)の建築で、木造3階建て。設計はW.M.ヴォーリス。昭和13年(1938)頃に玄関の移設など大規模な増改築が行われている。天然スレート葺きの腰折れ屋根、リシン圧吹き仕上げが特徴的な住宅である。 ○ (宝塚市景観形成建築物)	

※本選定は公開を前提としたものではありません。レストラン、展示施設等として利用されているものを除き、原則非公開です。お住まいの方もいらっしゃいますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。



名 称 [所在地]	重要文化財指定	伝建特定物件	文化財登録	景観重要建造物等他	建物概要	写真
高添家住宅 [宝塚市]			○	○	大正初期の建築で、木造2階建て。外観上層のハーフティンバーと階段室窓廻りのロマネスク風の装飾が特徴的である。 (宝塚市景観形成建築物)	
武藤家住宅 [宝塚市]			○		木造2階建てで、昭和12年(1937)に阪急電鉄の建売住宅として建てられた。当時流行したスパニッシュ様式の郊外型住宅で、切妻の屋根とハーフティンバーの外壁が特徴的である。 (宝塚市景観形成建築物)	
村上家住宅 [宝塚市]			○		木造2階建てで、昭和2年(1927)にドイツ人の設計により建設された。急勾配の切妻屋根と白く塗られた妻部と下見板張りの壁が特徴的で、屋根の明かり窓や煙突、玄関廻りの石積を模した装飾がアクセントになっている。 (宝塚市景観形成建築物)	
森實家住宅 [宝塚市]			○		昭和6年(1931)頃の建築で、木造2階建て。切妻の屋根とハーフティンバーの妻面が特徴的で、地域景観のランドマークになっている。 (宝塚市景観形成建築物)	
森本家住宅 [宝塚市]			○		昭和2年(1927)の建築で、木造2階建て。南向き斜面地に建ち、建物基部は乱れ石張り、その上はスタッコ仕上げで、この地域の開発最盛期の典型的な建物である。 (宝塚市景観形成建築物)	

※本選定は公開を前提としたものではありません。レストラン、展示施設等として利用されているものを除き、原則非公開です。お住まいの方もいらっしゃいますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。

名 称 [所在地]	重要 文化財 指定	伝建 特定 物件	文化 財登 録	景 観 重 要 建 造 物 等 他	建物概要	写真
安田家住宅 [宝塚市]				○	大正10年(1921)の建築で、木造2階建て。施主である安田辰次郎が、当時の北米の住宅を参考に自ら設計といわれる。  (宝塚市景観形成建築物)	
吉川家住宅 [宝塚市]				○	昭和5年(1930)以前の建築で、木造2階建て。間取りは和洋折衷だが、外観はドイツ風の腰折れ屋根や煉瓦の煙突、八角形のバルコニーを兼ねたベイウインドー等を備え、純然な洋風住宅で、建築当初の姿をほぼ残している。  (宝塚市景観形成建築物)	
井畑家住宅 [川西市]					大正中期の建築で、木造2階建て。設計は「あめりか屋」。素焼き洋瓦のマンサード屋根が特徴的な洋館で、地域のランドマークになっている。	
柴田家住宅 [川西市]					大正中期の建築で、木造2階建て。設計は「あめりか屋」。和洋折衷のスパニッシュ風の外観で、「あめりか屋式」とも言われる急勾配の切り妻屋根を組み合わせた立体構成が特徴的である。	
奥野家住宅 (秋景楼) [三田市]					木造2階建てで、明治10年代に神戸の大工が建てたといわれる。当初は3階建てで、3階部分は望楼になっていたが、現在は撤去されている。寄棟棧瓦葺、南・西面二階に装飾付きの手すりをもつペランダが巡り、東面は漆喰壁に縦板張りの擬洋風建築である。	

※本選定は公開を前提としたものではありません。レストラン、展示施設等として利用されているものを除き、原則非公開です。お住まいの方もいらっしゃいますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。